

I 上尾市産業の現状と課題

(歴史と土地利用)

現状

本市は長い歴史を持ちますが、江戸時代には、上尾地区は中山道 69 宿の 5 番目の宿場町として、平方地区は荒川舟運の要衝として、原市地区は市場町として、それぞれ発展しました。その他の地域は、麦や野菜を供給する農村地帯でしたが、明治 16 年、高崎線開通と同時に上尾駅が設置されたことに伴い、次第に市街地形成が進みました。

明治時代末期には、上尾町や平方町に製糸工場が建てられたこと、昭和の時代に入ってから、機械・金物・食品工場も操業したことなどにより、本市の工業都市としての下地が作られました。

終戦後、東洋時計(株)から技術者が独立し、多くの精密金属加工業の中小企業が生まれました。また、昭和 30 年代には、工業団地の造成と企業誘致を他都市に先んじて進めたことにより、大企業の事業所・工場の立地がなされました。

昭和 40 年代には、都心から 40km 圏内で交通の利便性が良いことから、団地や住宅地が開発され、人口増加が顕著となりました。

現在でも、都心に近く、道路交通や鉄道などによる広域のアクセスの良いこと、災害が少ないことなどは、産業立地上においても、住環境においても、本市の優位性として評価されています。

本市の都市構造をみると、JR 上尾駅周辺には商業系の施設が多く立地し、中心市街地を形成しています。また、その周辺には住宅地が、さらにその外側には豊かな田園や自然環境などが分布する形態となっています。

こうした中、人口と住宅の増加に伴い、工場と住宅が混在する地域においては、共存に向けた取り組みやさらなる工業適地の確保などが求められています。

現在、上尾道路の整備が進められており、市内の道路混雑の緩和や市外へのアクセスの向上、企業立地の魅力の高まり、本市への来訪者の増加などが期待されています。

課題

- 適切な土地利用の在り方についての検討
- 上尾道路の整備に伴う道路交通網の利便性向上

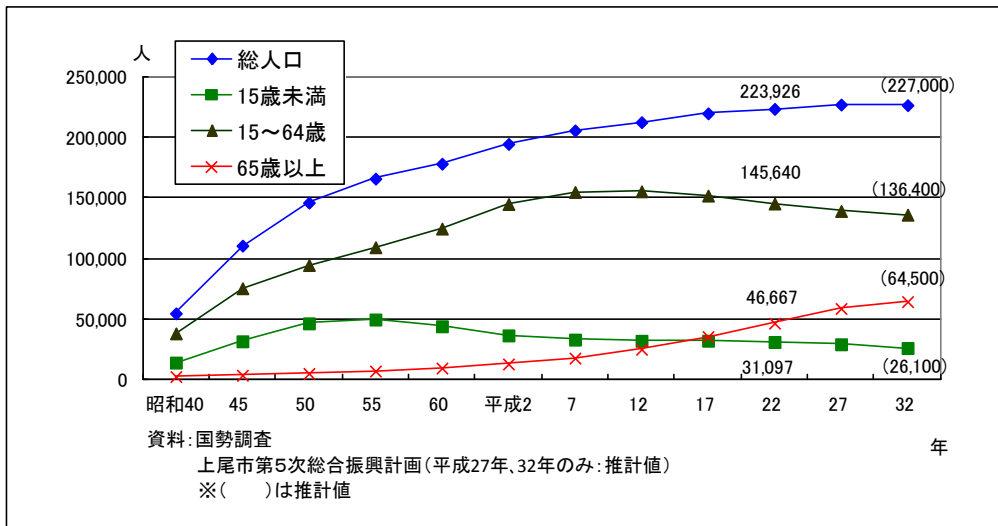
(人口)

現状

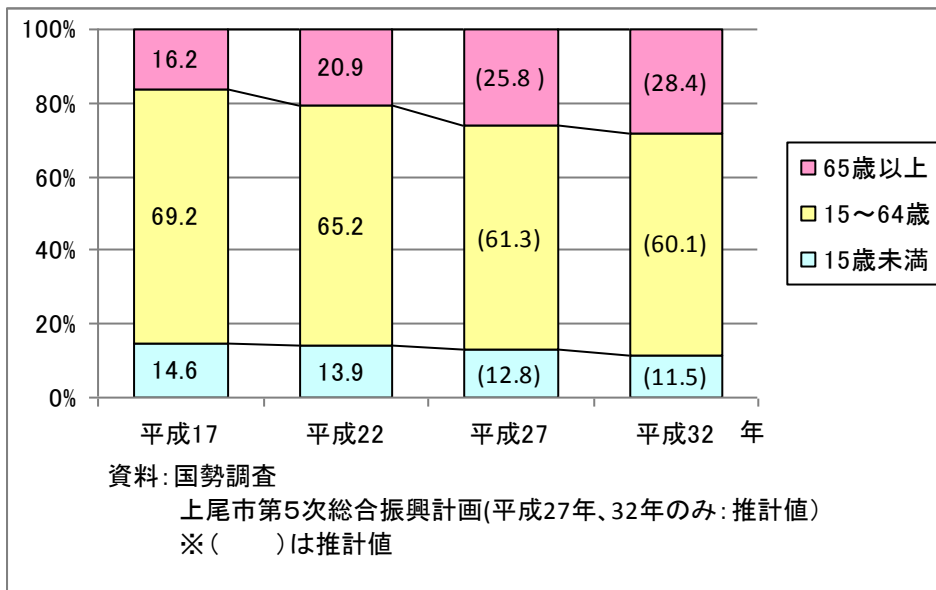
本市の人口は、産業や住宅の立地とともに、昭和40年代に急増しました。その後も人口が増加し、平成22年の国勢調査では223,925人となり、現在でも人口の増加が続いています(平成25年2月1日現在、227,540人)。

しかし、人口構成比をみると、65歳以上高齢者の割合は20.9%で、全国平均(23.0%)よりは低いものの、埼玉県平均(20.4%)より高くなっています。また、生産年齢人口(15~64歳)は65.2%で、平成12年をピークに減少し、平成32年には60.1%まで減少すると推計されています。

●人口の推移



●上尾市の年齢階級別人口構成比の推移



本市の昼夜間人口比率をみると、埼玉県内40市のうち29番目の83.9%となっており、県平均を下回っています。また、就業者人口の流出入をみると、市外への流出人口が市内への流入人口の2倍を超えています。これらのことは、まちなかの賑わいに影響を与えているものと考えられます。

●昼夜間人口の順位（埼玉県内）

順位 (40市中)	市名	昼夜間人口比率	夜間人口(人)	昼間人口(人)
1	本庄市	100.8	81,889	82,525
2	熊谷市	98.6	203,180	200,405
3	東松山市	98.6	90,099	88,847
4	八潮市	97.6	82,977	80,999
5	羽生市	97.5	56,204	54,772
:				
29	上尾市	83.9	223,926	187,765
30	川口市	83.7	500,598	419,080
31	ふじみ野市	83.2	105,695	87,939
:				
38	志木市	78.3	69,611	54,519
39	鳩ヶ谷市	75.6	60,908	46,033
40	富士見市	72.4	106,736	77,311
埼玉県		88.6	7,194,556	6,373,489

資料：平成22年国勢調査

●上尾市の就業者の流出入

	流入人口(人)	流出人口(人)	流入-流出
総数	30,408	67,253	▲ 36,845
東京都	1,073	21,518	▲ 20,445
埼玉県内	28,220	38,932	▲ 10,712
さいたま市	8,281	20,675	▲ 12,394
川口市	488	1,221	▲ 733
川越市	728	1,449	▲ 721
伊奈町	2,271	2,248	23
桶川市	4,069	3,486	583
北本市	2,110	980	1,130
鴻巣市	2,002	829	1,173
その他県内	8,271	8,044	227
その他県外	1,115	6,803	▲ 5,688

資料：平成22年国勢調査

これらの状況に対応するためには、高齢者の雇用機会の創出や市内に人を呼び込む取り組みを進めることが求められます。

課題

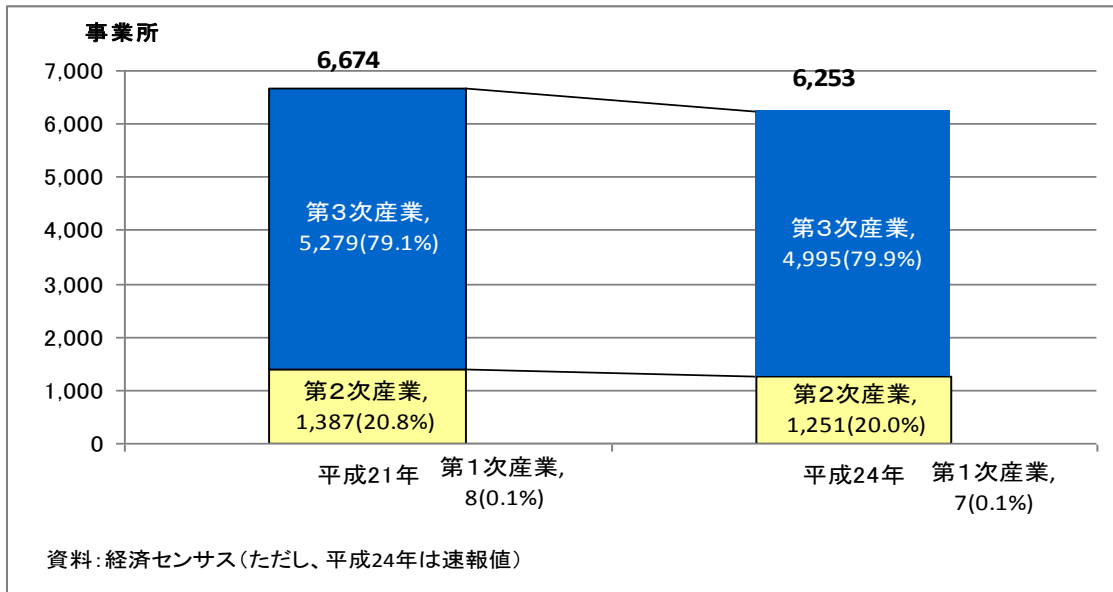
- 市内雇用・就業場所の増加
- 外部に依存しない経済の創出

(産業構造)

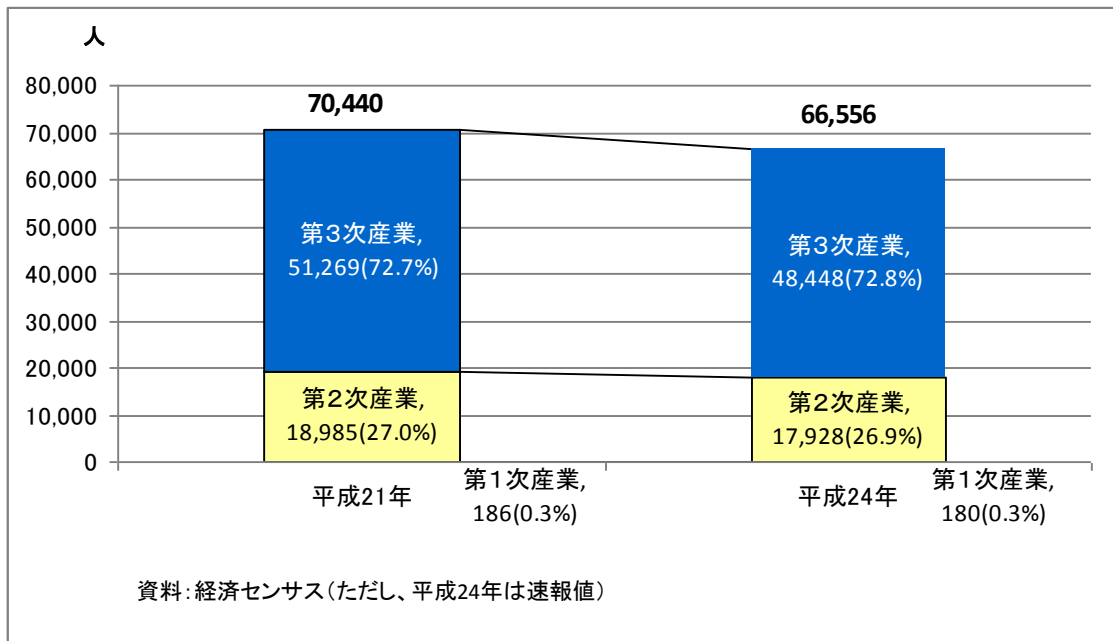
現状

本市の産業構造をみると、第三次産業（卸売・小売業、飲食店、サービス業等）の事業所数が全体の約8割、従業者数が約7割を占めており、主要な産業となっています。

●産業分類別事業所数比率



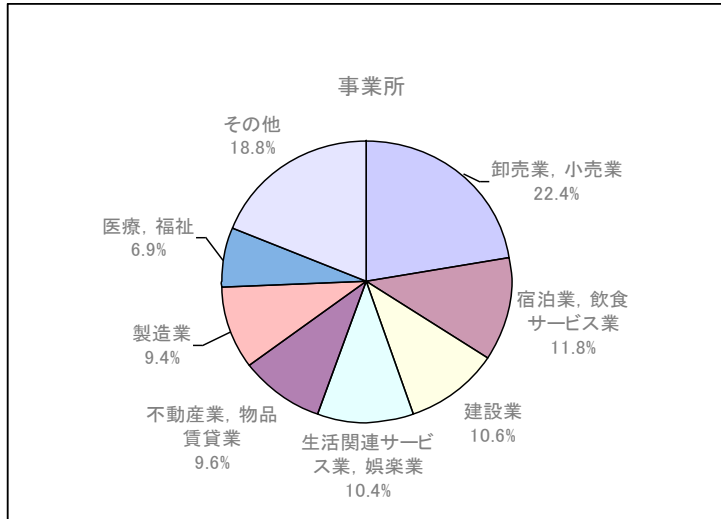
●産業分類別市内従業者数



次に、市内事業所の状況をみると、事業所数は、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、建設業の順に多くなっていますが、従業者数では、卸売・小売業、製造業、医療・福祉の順となっています。これは、従業員 300 人以上の大企業が市内に立地していることによるものです。

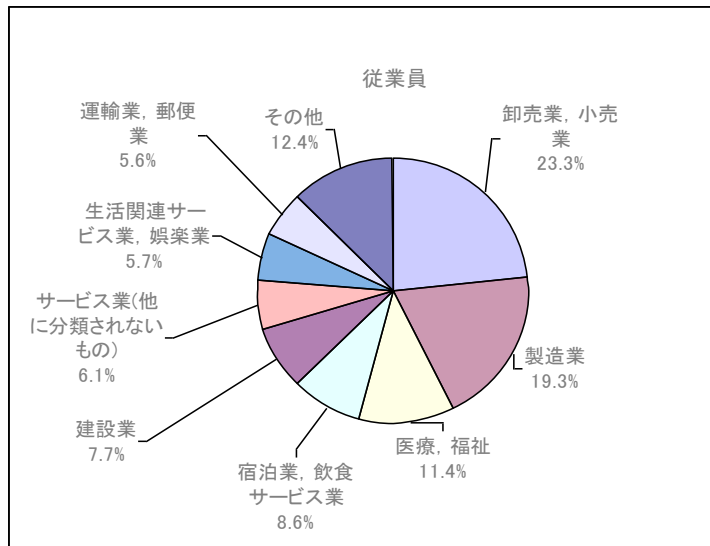
また、事業所規模をみると、従業員 30 人以下の中小企業が 9 割を超えていることから、中小企業が本市の産業の要といえます。

●上尾市の産業分類（中分類）別事業所数比率



資料：平成 24 年経済センサス（速報値）

●上尾市の産業分類（中分類）別従業者数比率



資料：平成 24 年経済センサス（速報値）

課題

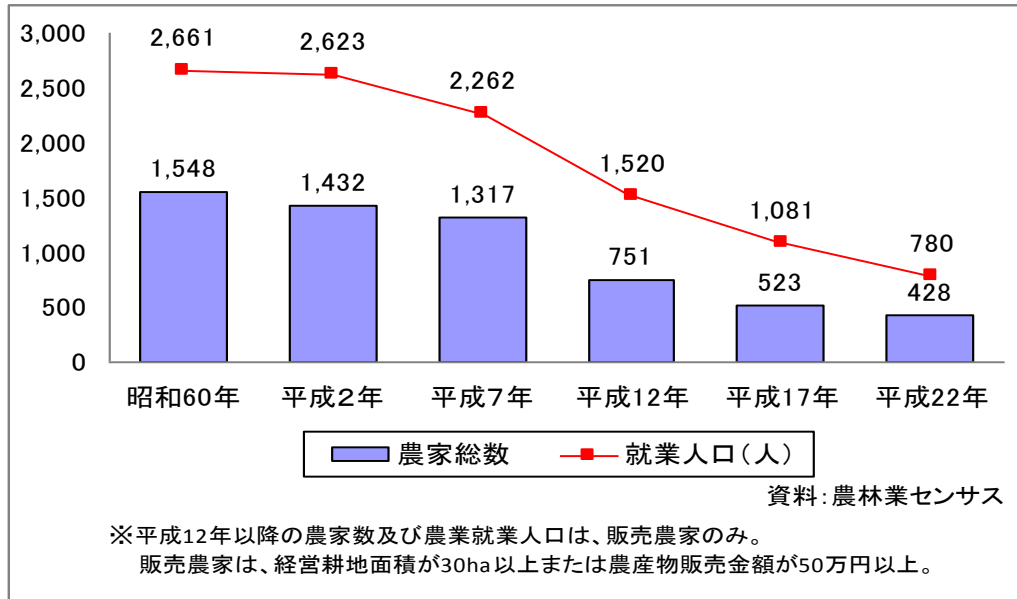
●中小企業支援の強化

(農業)

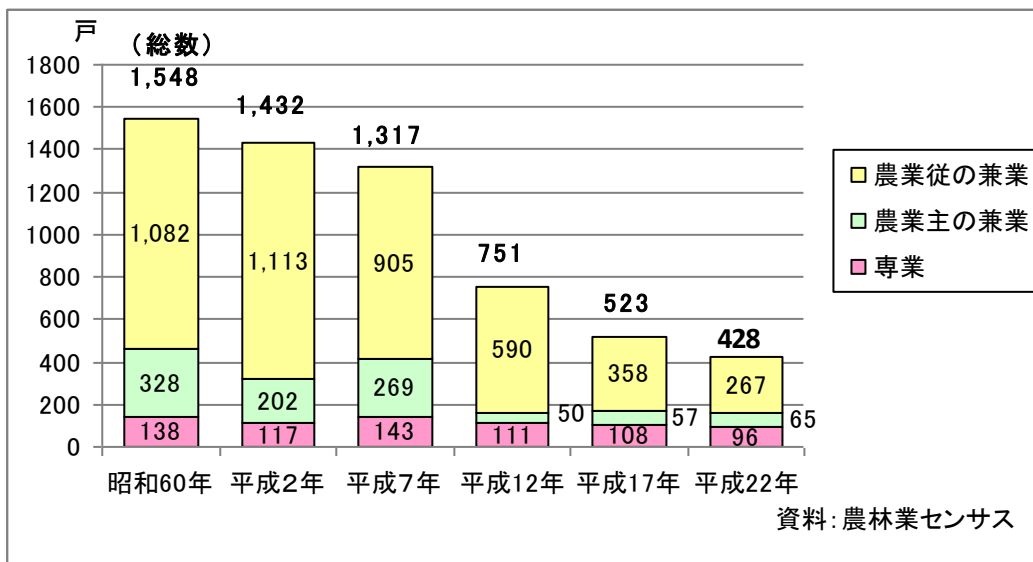
現状

本市の農業は、昭和60年から平成22年の25年間で、農家数、就業者数、耕地面積ともに減少が続いています。特に、農業を従とする兼業農家数が著しく減少しています。

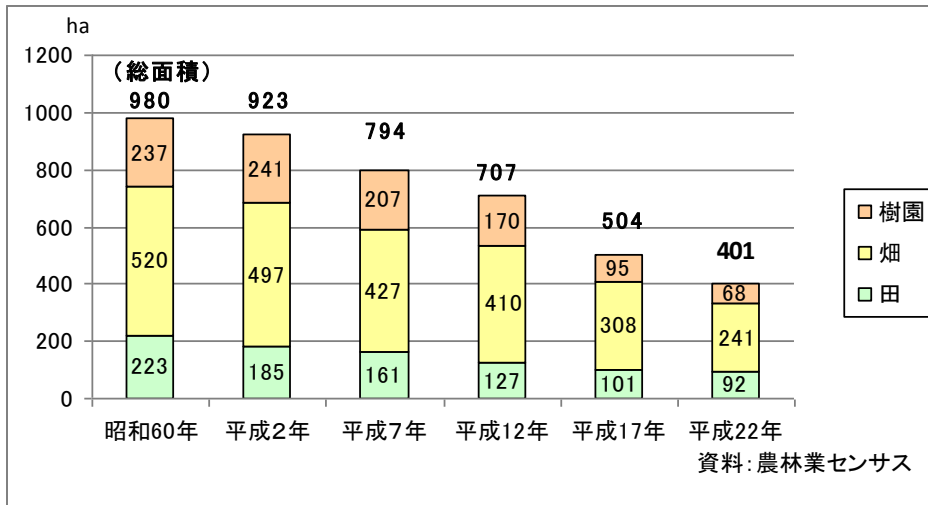
●農家総数と就業人口



●農家戸数の内訳



●経営耕地面積



本市では、主に野菜・果樹栽培が行われており、中でもカキとキウイフルーツは、県内1位の生産量を誇っています。

これらの農産物の販路としては、直売所が販売品取扱高に占める割合が高くなってきています。今後は、地産地消や安心・安全な農産物の提供などに対する市民ニーズが高まることが予想されるため、直売所の機能の充実やさらなる活用が望まれます。

●県内における上尾の農作物の地位（平成18年度収穫量基準）

品目	順位	品目	順位
果実類		穀類・野菜類	
カキ	1位	小松菜	2位
キウイフルーツ	1位	ヤマノイモ	6位
クリ	3位	サツマイモ	7位
スモモ	4位	キャベツ	13位
ブドウ	9位	トマト	13位
日本ナシ	14位	里芋	13位
畜産		大根	15位
乳用牛	13位	ニンジン	15位

※キウイフルーツは平成16年度収穫基準

本市における農産物のブランド化への取り組みとしては、地域ブランド梨「黄金の雫」が、都内の高級フルーツ店等で販売されているほか、市内事業者と連携した加工品も販売されています。

また、農業生産法人化、市内の工業者と連携しての農業の6次産業化や農場の観光利用に取り組み成果をあげている農業者も現れており、さらなる広がりが求められます。

課題

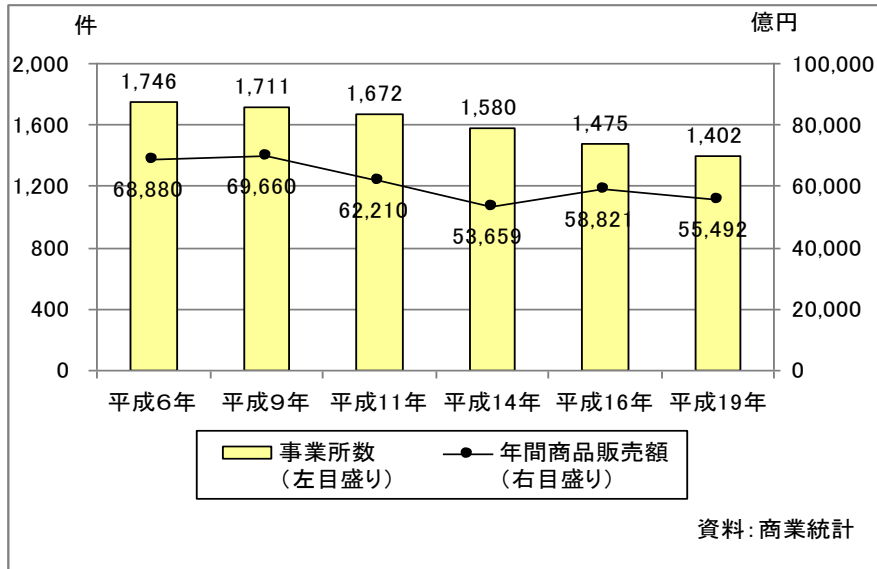
- 担い手の育成
- 直売所のさらなる活用
- 農業の6次産業化、ブランド製品の開発

(商業)

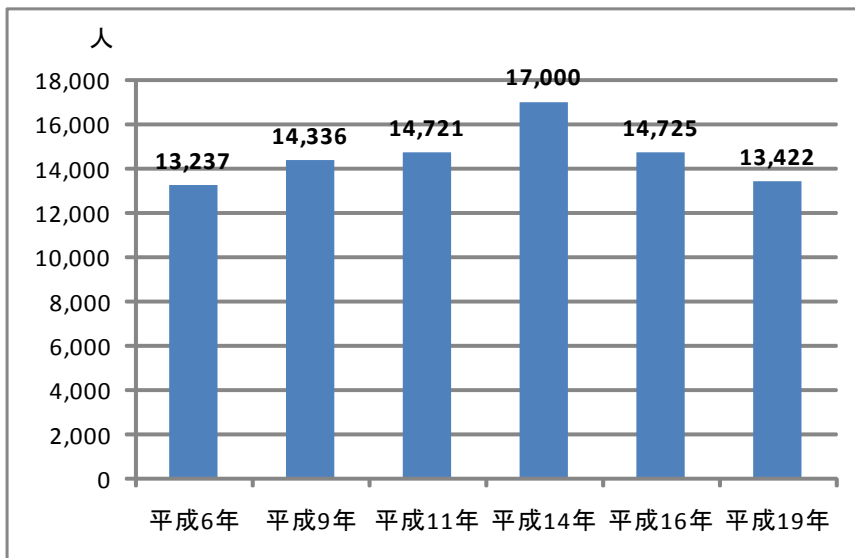
現状

本市の商業は、平成6年から平成19年の間で、事業所数及び従業員数、年間商品販売額は減少傾向にあるものの、売場面積は増加しています。

●事業所数及び年間商品販売額の推移

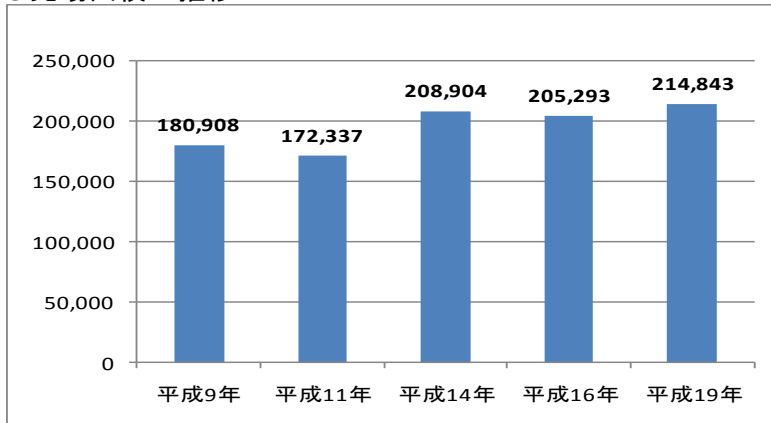


●従業員数の推移



資料：商業統計

●売場面積の推移



資料：商業統計

中心市街地は、上尾駅の東西に商店街とともに大型商業施設が立地しています。東口は歴史ある中山道沿道の商店を中心として発展し、西口は先進的な商店街モデルとして開発され、上尾市の人口が増加するとともににぎわいを増してきました。

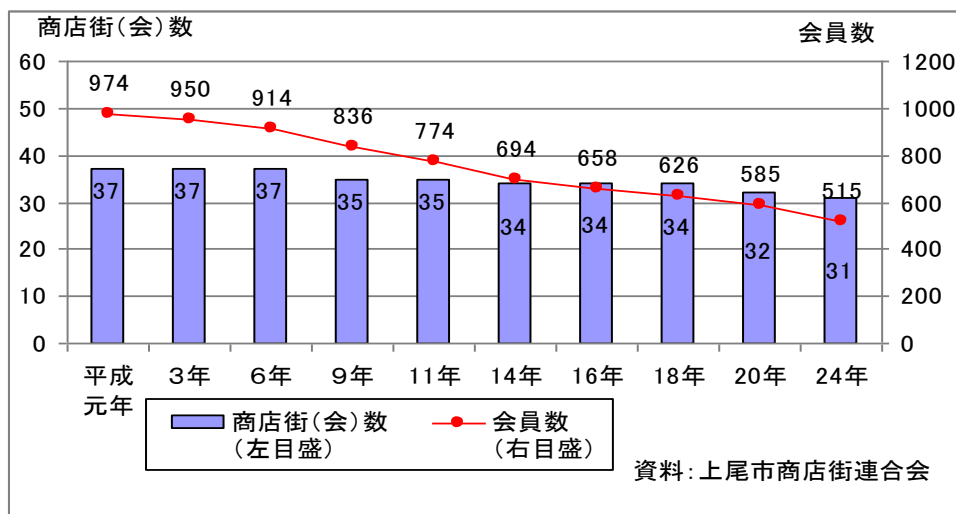
近年では、郊外型ショッピングセンターの出店による購買力の流出の影響で、中心市街地での消費の減少がみられます。今後も、大型ショッピングセンターの開業が予定されており、影響が懸念される一方で、東口の高層マンションを含む再開発や西口のスポーツ・商業施設の開業など、人口の増加や集客力の向上などが期待される材料もあります。こうした中、中心市街地が一体となって、魅力を高めていく取り組みが求められます。

郊外においては、住宅地の中に点在した商店で形成された商店会が多く、高齢化や会員数の減少により、商店街活動が低迷しているほか、廃業などによる空き店舗もみられます。

しかし、便利屋サービスなどのコミュニティビジネスや団地内の空き店舗を利用した高齢者への宅配サービスなど、地域ニーズに対応した取り組み事例があります。地域の商店街には、商業機能にとどまらず、地域コミュニティの拠点としての役割が期待されています。

一方、大型店には、その事業規模が地域経済やまちづくりに大きな影響を持つことから、地域社会への貢献や商店街との共存共栄が図られることが望まれます。

●商店街（会）数と会員数の推移



●商店街連合会会員一覧（平成24年3月31日現在）

地区	商店街名	会員数
上尾東	アリオベール上尾デパート館出店者会	12
	アリオベール上尾サロン館ホテル館出店者会	20
	中山道第一のれん街	19
	上尾市役所通り商店街	25
	アッピー通り商店街	8
	東口駅前大通り商店会	24
	上尾すずらん通り商店会	15
	上尾仲町商店会	33
	上尾愛宕商店会	38
上尾西	ショーサンプラザ専門店会	53
	(協)上尾モンシェリー	15
	谷津一番街	3
	ショーサン通り商店街	19
	柏座三丁目商店会	3
	上尾柏四繁栄会	15
平方	平方商店会	20
原市	原市団地北口商店会	6
	原市大通り商店会	14
	原市団地西口商店会	5
	原市南商栄会	23
	原市六区北商店会	16
	尾山台商栄会	11
大石	弁財商栄会	22
	井戸木商店会	8
	東急ショッピングセンター会	15
	夕日が丘通り商店会	12
	西上尾第二団地名店会	8
	西上尾商友会	16
	小敷谷商友会	10
大谷	今泉中央商店会	10
—	上尾サービスシール(協)	17
	合 計	515

●市内大型小売店舗（平成24年3月31日現在）

No	店舗名	売場面積 (㎡)	No	店舗名	売場面積 (㎡)
1	上尾ショッピングアヴェニューPAPA	19,796	17	フードガーデン上尾中妻店	1,668
2	丸広百貨店上尾店（上尾東口ショッピングセンター）	19,763	18	いなげや上尾春日店	1,666
3	バリュープラザ上尾愛宕店	18,868	19	ドラッグストアセキ平塚店	1,597
4	イトーヨーカドー上尾店	17,100	20	マルエツ上尾小泉店	1,572
5	ショーサンプラザ専門店会		21	マルエツ上尾井戸木店	1,548
6	ホームマートセキチュー上尾店	14,002	22	でんきち上尾店	1,499
7	ビバホーム上尾店	6,049	23	ライコランド埼玉店	1,496
8	平塚ショッピングセンター（マルエツ上尾平塚店）	5,608	24	ノジマNEW上尾店	1,479
9	いなげや上尾沼南駅前店	2,794	25	ヤオヒロ浅間台店	1,418
10	さいたまコープニッ宮店	2,525	26	一清堂上尾店	1,411
11	イシマル西上尾店	2,465	27	さいたまコープ今泉店	1,362
12	上尾東急ストア	2,333	28	しまむら西上尾ショッピングセンター	1,325
13	ケイヨーデイツー上尾店	1,976	29	カネマン西上尾店	1,304
14	コジマNEW上尾春日店	1,820	30	パシオス上尾店	1,265
15	カワチ薬品上尾東店	1,793	31	紳士服のコナカ上尾店	1,153
16	マミーマート小敷谷店	1,708			

課題

- 中心市街地が一体となった賑わいの創出
- 商店街・商店の地域、消費者への結びつきの強化
- 空き店舗の活用
- 大型店の地域商業に対する貢献と共存共栄

(工業)

現状

本市は、埼玉県内でも有数の工場集積地を持っており、平成10年から平成22年の間の県内における製造品出荷額をみると、景気動向の影響を受けながらも、常に上位に位置しています。

しかし、昭和50年から平成22年の間の本市における工業の状況をみると、平成元年以降、工場数及び従業員数、製造品出荷額は減少傾向にあります。

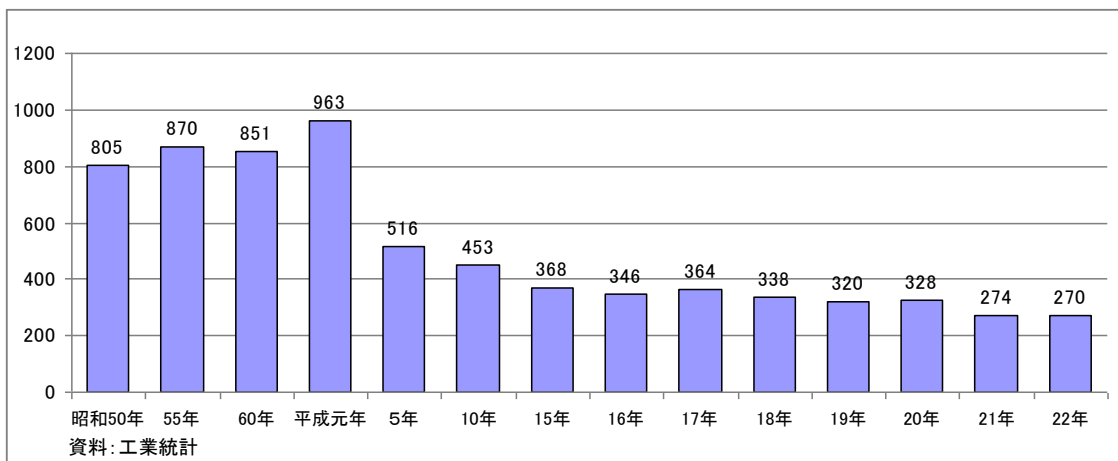
●製造品出荷額等の上位10市町村（埼玉県内）

（単位：億円）

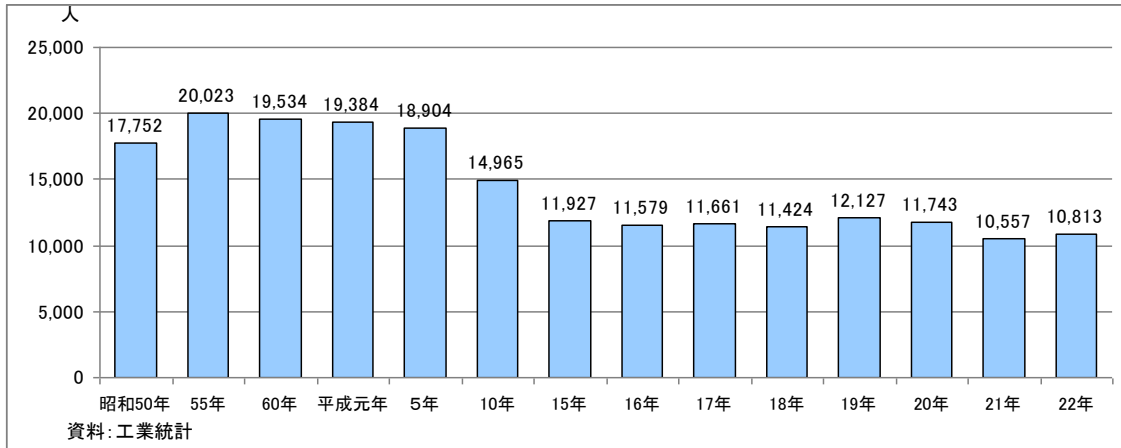
順位	平成10年		平成15年		平成20年		平成22年	
	1	狭山市	12,226	狭山市	12,785	狭山市	14,868	深谷市
2	川越市	7,365	川越市	7,042	さいたま市	9,132	狭山市	12,006
3	川口市	7,206	さいたま市	6,865	川越市	8,648	川越市	8,317
4	熊谷市	4,818	川口市	5,170	熊谷市	8,580	さいたま市	7,768
5	大宮市	4,576	上尾市	4,399	深谷市	7,556	熊谷市	6,955
6	草加市	4,145	草加市	3,717	川口市	5,628	久喜市	4,391
7	上尾市	3,968	新座市	3,542	上尾市	5,330	川口市	3,958
8	八潮市	3,958	岩槻市	3,383	草加市	4,330	上尾市	3,908
9	深谷市	3,905	八潮市	3,203	本庄市	4,070	加須市	3,867
10	新座市	3,848	久喜市	3,158	入間市	3,986	草加市	3,866

資料：工業統計

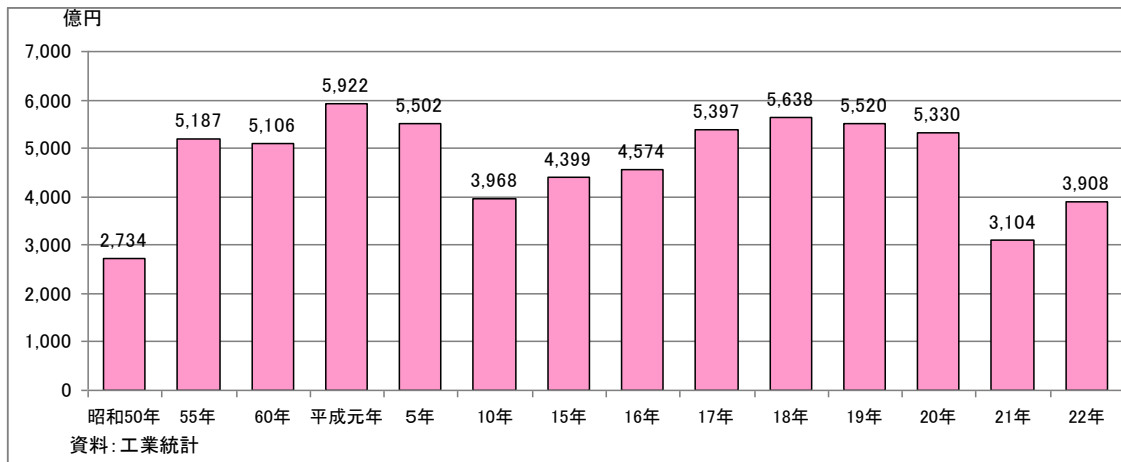
●工場数の推移



●従業者数の推移



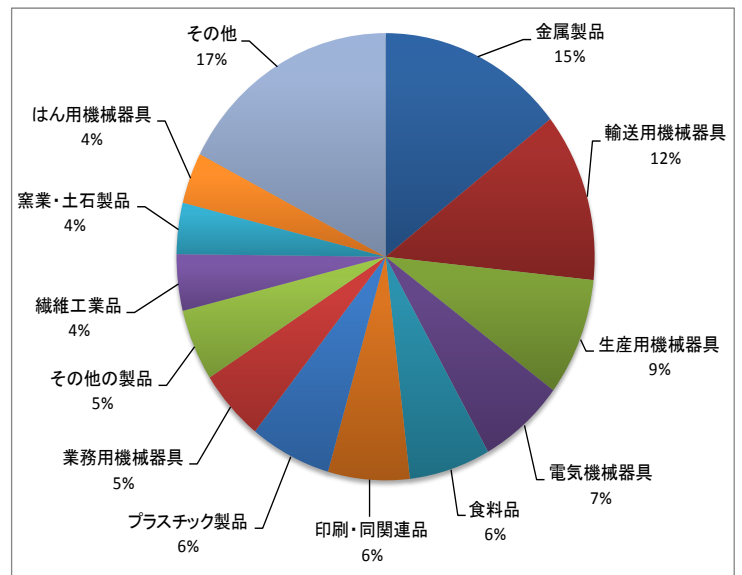
●製造品出荷額等の推移



次に、業種別にみると、工場数では、金属製品製造業、輸送用機械器具製造業、生産用機械器具製造業の順に多くなっていますが、製造品出荷額及び従業員数では、輸送用機械器具製造業が大きな割合を占めています。

●工場数

	工場数
金属製品	39
輸送用機械器具	33
生産用機械器具	23
電気機械器具	18
食料品	17
印刷・同関連品	17
プラスチック製品	17
業務用機械器具	14
その他の製品	14
繊維工業品	11
窯業・土石製品	10
はん用機械器具	10
その他	47
計	270

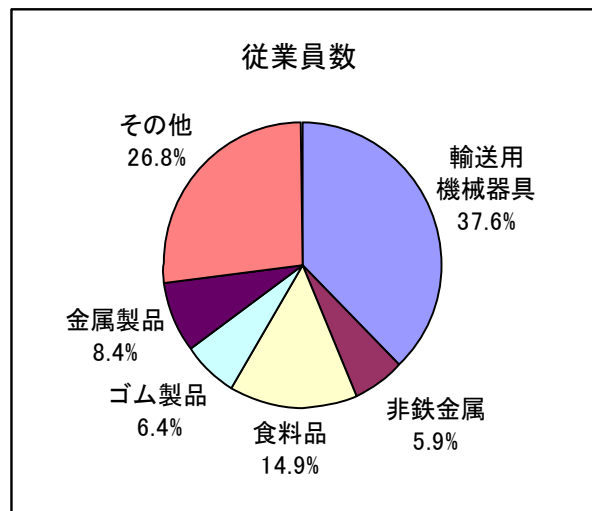
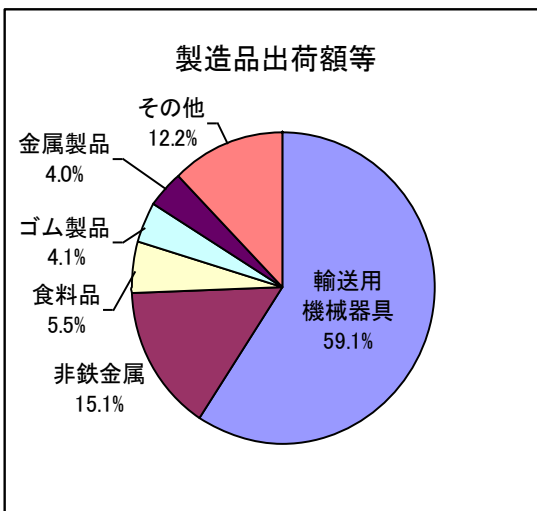


資料：平成22年工業統計

●製造品出荷額及び従業員数

	製造品出荷額等 (万円)	従業員数
輸送用機械器具	23,090,206	4,066
非鉄金属	5,908,619	638
食料品	2,147,079	1,609
ゴム製品	1,612,535	692
金属製品	1,561,789	908
その他	4,756,352	2,900
合計	39,076,580	10,813

資料：平成 22 年工業統計



次に、従業者規模別にみると、中小企業が大半を占めています。これらの事業所は、下請け加工型の事業所が多いため、経済変動や技術革新、グローバル化の影響を受けやすいほか、近年では事業の承継や後継者不足が課題となってきました。

	事業所数
小規模層（19人以下）	193
中規模層（20～299人以下）	71
大規模層（300人以上）	6
計	270

資料：平成 22 年工業統計

本市には、中小企業異業種共同組合である「上尾ものづくり協同組合」があり、地場産業の振興・発展のための事業や異業種間の相互交流を行っています。こうした活動をふまえ、今後は、人材育成や技術の伝承、共同開発、情報提供など、交流と連携を軸にした取り組みを行うことが求められます。

課題

- 中小企業の経営支援（技術開発・販路拡大支援、人事育成）強化
- 中小企業の交流支援（同業種間、異業種間、他産業間）強化
- 国や県等の支援機関の利用推進

(観光)**現状**

本市では、「あげお花火大会」や「あげお産業祭」、「上尾シティマラソン」など、埼玉県内でも有数の集客力のあるイベントを開催しています。また、「上尾さくらまつり」や「あげお花しょうぶ祭り」「こいのぼり掲揚」などをはじめ、市内の美しい自然を活かした四季折々のイベントも開催しています。さらに、史跡・文化財をつなぐルートを散策する「あげお駅からハイキング」などの地域資源を活かしたイベントも開催しています。

このほか、体験型の観光牧場や観光農園などもあり、市内だけではなく、市外からも多くの方が訪れています。

今後、観光を産業振興に結びつけるためには、体験型観光の充実を図るなど、イベント以外でも本市を訪れたくなるような観光資源の発掘や創造が求められます。

また、イベントで本市を訪れる人や上尾運動公園、さいたま水上公園などの施設利用者などに向けて、情報発信などの新たな取り組みを行うことにより、市内消費の促進と地域産業の活性化が期待されます。

イベントカレンダー（平成24年度）

3月	上尾さくらまつり
4月	畔吉の万作踊り
5月	川の大じめ
5月	花いっぱい運動
6月	あげお花しょうぶ祭り
6月	あげお駅からハイキング
7月	上尾夏まつり
7月	堤崎の祭ばやし
7月	平方のどろいんきょ
7月	プロ野球イースタンリーグ公式戦
8月	あげお花火大会
8月	藤波のささら獅子舞
10月	畔吉のささら獅子舞
11月	上尾市民号
11月	あげお産業祭
11月	あげおイルミネーション
11月	上尾シティマラソン
11月	花いっぱい運動
1月	藤波の餅つき踊り

資料：上尾市観光協会HP

課題

- イベント時のみでない観光資源の発掘
- 集客力のあるイベントや施設のさらなる活用

Ⅱ 産業振興の方向性

1 産業振興の基本理念

本市の産業は、これまでの歴史の中で、豊かな市民生活や地域の活力を生み出してきました。地域産業の発展を通じて、より豊かな市民生活を持続・発展させるためには、将来を展望した方向性を定め、事業者・商工団体・市民・行政が一体となって取り組むことが必要です。

そこで、本市における産業振興の基本方針について、以下の3点を定めます。

(1) 産業振興の基本方針

① 新たな交流・連携の推進

本市においては、戦後、経済の成長とともに、農業、商業、工業それぞれの分野において、経済団体を中心に様々な交流や連携が行われ、その発展に貢献してきました。しかし、近年の経済のグローバル化と長引く景気の低迷により、本市の産業は非常に厳しい状況におかれ、交流や連携の活動の強化が求められるようになってきました。そこで、既存の活動の蓄積を踏まえ、分野内の異業種や産業分野間、市民との新しい形での交流・連携を推進することにより、新しい技術の開発や新分野の産業の育成を目指します。

② ブランド化の推進

本市の産業が、厳しい競争に打ち勝つためには、価格や技術の競争力強化に加え、他のどこにもない魅力をブランドとしてもつことが必要です。本市は、農業、商業、工業が歴史的な背景をもって成立・発展してきた特徴があります。また、大都市圏、大消費地に立地する優位性を持っています。これらの特徴や個性を活かし、製品や産品、サービスなどのブランド化を推進します。

③ 既存の産業のバージョンアップ

本市には、既に商業、工業の集積があり、農業も優れた商品作物の生産や6次産業化の事例があります。また、多くの人を集めるイベントや施設があります。

こうした既存の資源を活用して、既存の産業の魅力向上を図るとともに、既存の資源を連携させ、新たな価値を生み出す仕組みづくりを推進します。

(2)各産業分野の目指すべき姿

① 農業

生産地と消費者が近いという立地を活かして、直売所などの活用や独自の販売ルートを構築し、市場や顧客から強い支持を受けています。また、商業や観光と連携した新たな取り組みが行われ、上尾のブランドイメージを作り上げています。

遊休農地については、都市近郊農業の特徴を活かした市民農園などとして、有効活用されています。

② 商業

駅を核とした中心市街地は、魅力と一体感をもった取り組みを行うことにより、にぎわいを創出しています。

地域にある商店街や商店は、積極的に魅力の向上に努めるとともに、周辺の地域の実情に応じた商品の提供やサービスを行い、地域コミュニティとの連携を図っています。

大型店等は、地域の一員としての自覚を持ち、地域貢献を行うほか、地域の商店街や商店と連携して、共存共栄に向けた取り組みを進めています。

③ 工業

地域で伝えられてきたものづくりの技術を磨き上げ、高い競争力・収益力を持った中小企業が、多数立地しています。これまで培われてきたネットワークをもとに、同業種・異業種間交流、産学官連携により、共同研究や共同受注などの自主的な取り組みが生まれています。また、技術開発・販路開拓、人材育成も活発になされています。

また、本社機能を有する大企業が、交通の利便性や災害の少なさなどの都市的環境を持つ上尾に立地し、地元雇用や社会貢献等を行い、地域との連携を図っています。

④ 観光

歴史や自然など、上尾市独自の地域資源を活かし、「自転車のまちづくり」などとの連携により、相互に結び付けられて市内外から人が集まり、地域のにぎわいが生まれています。また、食やイベント、土産などにおいて上尾市ならではのものが創られ、産業の振興や上尾のブランド向上につながり、集客に貢献しています。

(3) 産業振興ビジョンにおける将来都市像

【都市像案】

交流と連携でつくる、多彩な産業が躍動するまち あげお

交流と連携でつくる、多彩な産業がキラリと光るまち あげお

ワンランク上のあげおをめざして
～交流と連携で、地域経済の活性化～

人が集まり、つながる にぎわいと活気のあるまち あげお
～多彩な産業がアツマルシェ～

※第二回策定委員会では、将来都市像を検討していただくため、上述のような形になっておりますが、最終的な産業振興ビジョンのイメージは、以下のとおりです。

ビジョンで目指す将来都市像



「3つの基本方針」



新たな連携・交流の促進

ブランド化の推進

既存の産業のバージョン
アップ

2 次年度の検討事項(案)

(1)基本方針に基づく施策の検討

① 新たな交流・連携の推進

- ・産業内連携
- ・産業間連携
- ・産学官連携
- ・市民との交流・連携 など

② ブランド化の推進

- ・各分野におけるブランド化対象の発掘・育成
- ・分野連携によるブランド化（農商工連携、6次産業化など）
- ・ブランドマネジメント戦略 など

③ 既存の産業のバージョンアップ

- ・新たな資源・支援の導入（大学や国・県の支援機関との協力関係など）
- ・情報発信力の強化 など

(2)推進体制の検討

- ・産業振興策の研究・提言を行う（仮称）産業振興会議の設置
- ・アドバイザーやコーディネーターの配置
- ・施策の実施主体及びその役割の設定
- ・交流・連携への支援体制 など